

行政視察研修報告

○日時 平成 26 年 11 月 5 日（水）～11 月 7 日（金）

○研修先 青森県三戸町

茨城県東海村 「東海第 2 発電所」

東京都 「議員研修会」

友好都市である青森県三戸町及び茨城県東海村「東海第 2 発電所」を視察したほか、東京都内において「議員研修会」を実施した。

青森県三戸町

三戸町が進めているまちづくり事業について、意見交換を行った。

有名な漫画家「馬場のぼるさん」の人気絵本「11 匹のねこ」をテーマにまちづくりを進めているということであった。町内の各所に「11 匹のねこ」のキャラクターやイラストを配し、まちづくりの機運を高めている。

バスや公用車へのラッピングのほか、フェイスブックやツイッターなどで「11 匹のねこ」によるまちづくりを発信。特に郵便局では、スタンプや切手シートに「11 匹のねこ」を登場させ、大人気を得た。町の活性化の柱として「11 匹のねこ」が果たした役割は大きいと考える。

牧之原市においても、「津波防災まちづくり事業」と「活力あるまちづくり事業」を進めている中でまちおこしの柱となるものを発信していくことが大切である。

例えば、「牧之原市花の会」が国際コンクールで最高賞「5つ花」を受賞したことから、「花」をテーマにしたまちづくりや歴史的に有名な「田沼意次公」や「鈴木梅太郎博士のビタミン」「藤田まさと先生の詩」をモチーフにしたまちづくりを進めたい。

茨城県東海村「東海第 2 発電所」

東海第 2 発電所において、発電所の安全対策と使用済核燃料乾式貯蔵施設の視察研修を行った。

東日本大震災による津波は、防潮壁より低く、被害は最小限に食い止められたが、万全を期すための具体的な対策について説明を受けた。

まず、電源確保対策については、高圧電源車や低圧電源車を配備しているとのことであった。

次に乾式キャスク型使用済燃料貯蔵施設は、鉄筋コンクリート構造で耐震貯蔵容器 24 基収容、貯蔵容量は、ウラン重量約 260 トンを平成 13 年度より貯蔵を開始し、再処理するまでの間、安全に貯蔵管理することが義務づけられている。

六ヶ所村の再処理工場が、なかなか稼働しない中、使用済核燃料をどうするかは、日本の原子力政策及び各原子力発電所の重要な課題だと考える。

浜岡原発も使用済燃料を今後、新設される予定の半地下型の乾式貯蔵施設で 30～40 年貯蔵すると聞いているが、安全な保管体制確立の必要性を特に感じた。

議員研修会

東京都内の出版社「(株)ぎょうせい」の会議室において、法政大学法学部教授廣瀬克哉氏から「議会審議の活性化と質問力向上」について講義を受けた。

議会は、議案審査が第1の柱であり、説得力のある審査結果が出せるよう審議を尽くすことが重要であると伺った。また、議会の議決には議員としての裏付けを取る必要があり、当局提案に対案を提起し、市民の意思を反映し、政策の向上を実現することが重要だということであった。

そのためには、議員個々が資質の向上を図り、議員力、議会力を強力に発揮することが求められている。

議会の厳しい議案審査は、長期的に行政（職員）を育て、自治体のレベルを上げる機能があることから、そのためにも通告質疑、一般質問、議員間討議の充実を図ることが重要である。

一般質問は議員個人の裁量で取り上げる内容も決められ、着目点を議会に反映させる重要な場である。一般質問力の向上を図るには、議員個人のレベルアップが必要であり、行政に依存しない情報源を持つことや住民からの情報を活かすことが重要である。

一般質問は、議員と首長（行政）の関係で終わりがちだが、議会としての課題展開に繋がる仕組みづくりや、議員の情報収集や分析のフォローアップをどのようにしていくのが重要である。

この講義から各議員が議案審議や一般質問、議員間討議等の重要性を再認識できた有意義な研修であった。



友好都市 青森県三戸町



茨城県東海村「東海第2発電所」



議員研修会